水を語る会

会 報 第５５号

令和５年４月 22 日

水 を 語 る 会

会長　眞柄　泰基

現在の会員数　一般会員 141 名　団体会員７団体　協力会員 10 名　（令和元年７月現在）

講演会の報告（第 43 回会員集会）

日時：令和５年２月 18 日(土)13 時 30 分～15 時 30 分

場所：日本水道会館会議室及び WEB（Zoom）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

講演１：水道行政の移管と今後の水行政の在り方

講師：坂本　弘道 様

（一社）スマート水道推進協会会長

講演では、水道行政が国交省と環境省に移管する経緯について、新型コロナ対策等厚労省の役割が多く、水道と食品は厚労省でやらなくてよいと官邸主導で動いたこと。長い目で見れば全体をバランス良くやるのが本来の仕事と考えると水資源、河川、下水道と水関連が一緒になることのメリットを説明されました。その後、水道創設から厚労省が水道を所管した経緯、今日までの水道行政の変遷とともに、最後に水道の基本精神とともに、国、都道府県の役割や、広域化等今後の水道への期待をご紹介いただきました。

写真-1　講演中の坂本様

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

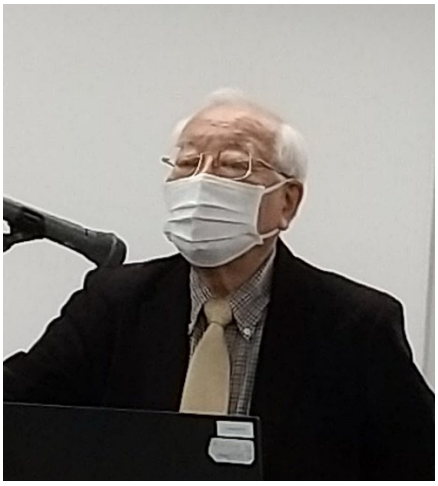
講演２：持続可能な水道へ

講師：竹　村　公太郎 様

日本水フォーラム事務局長

講演では、国交省に水道が移管されることは百年に一度の大転換であり、国交省ではこれまでの河川管理者として関わりから、これからは基礎自治体の相談を受ける立場となり、水道行政を自分事として対応することへの考えを紹介されました。その後、不特定用水の考え方、渇水時の都市用水使用者の権利、ダムの流量調整機能、爆発的な日本の急成長に対応するため、開発基準点を最下流に設置した経緯、人口減少・年間の電力使用量削減から上流取水への動きをご説明いただきました。最後に未来への提言として農業用水との連携、水力エネルギー活用によるダム運用のメリットについて、ご自身の考えをご紹介いただきました。

写真-2　講演中の竹村様



定例幹事会の報告

日時：令和５年２月 18 日(土)　12 時～12 時 50 分

場所：日本水道会館及び WEB 会議

議題：①今後の会員集会について

②講演録の作成状況確認

③その他

編集後記

今回の会員集会より入場制限のない開催ができました。Zoom による配信も継続していきますので、水を語る会の活動を通して会員間の交流が広がることを願っております。引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（幹事　星野）

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

→ http://mizuwokatarukai.org /